

今週の富大生

Weekly TOMIDASEI

第3号

人文学部 人文学科
社会学分野 4年
富山県立呉羽高等学校
(富山県)

やりたいことに出会えた大学生活

きっかけは楽しそう！という思いから

富山で学ぶことを、あえて選ぶ

進路決定のタイミングで、都市部への大学進学を希望する友人もいました。

私は富山にいることに心地よさを感じていたこと、英語を学びたいという気持ちから富山大学の人文学部への進学を決めました。

学ぶ中で自分の進む道を見つめ直す

人文学部では、1年次の終わりに8つのコースを選択するしくみになっています。もともとは英語に興味があったので英米言語文化コースが良いかなと思っていました。でも1年次の教養科目で、「富山学」などの講義を受ける中で、富山そのもの、富山で暮らす人々やまちづくりに興味があることに気づきました。そこで社会学が学べる、社会文化コースを選びました。そのため、高校生の時に思い描いていた英語ではなく、社会学を軸にまちづくりを学ぶという選択をしました。

魅力的な富山＝商店街の活性化

まちづくりという分野の中でも、私は商店街の活性化に関心を持ちました。高校生の時の友人が首都圏へ行くことへの寂しさや悔しさもあったことを思い出し、魅力的な富山をもっと作っていきたくて強く思うようになりました。富山市の商店街の空き店舗も多く見ている中、その場所で何ができるだろう？と考えるようになりました。そこで、卒業研究は「氷見のまちづくり」について研究することにしました。

なぜ氷見なのかというと、まちづくりの取り組み事例が富山県内でも多く、人とのつながりや縁もあるからです。

「選ばれる場所」づくりを目指して

卒業後は富山でまちづくりと観光業に取り組む企業に就職することに決めました。

商店街の活性化というところから派生して、観光宿泊からまちの魅力発信という視点で仕事をしていきたいです。富山がこれからの時代を担う子供たちに選ばれる場所になるよう、頑張ります！



母校の後輩へ

大学には、新たな世界・新たな自分に出会い、将来の視野を広げられるチャンスがたくさんあります。「楽しそう！」というワクワクした気持ちで一歩踏み出し、色々なことに挑戦してみてください！